

グリーンジャーニー

観光は地域経済の活性化にとって重要である。一方で、観光という行為による地域への環境負荷などが懸念されている。そのような状況の中で、環境に優しく地域経済にも貢献する「グリーンジャーニー」という新しい旅のコンセプトが注目されている。

「グリーンジャーニー」は「CO₂の排出を減らしながら地域の課題解決にもつながる、新しいサステナブルな旅の形」である。2024年9月に自動車メーカーや旅行会社等の民間企業14社に加え、環境省や東北大学などが連携した産学官連携プロジェクトの中から誕生した。

このプロジェクトには志摩市が提携自治体として参画し、すでに伊勢志摩エリアにあるさまざまな観光体験を組み合わせた独自のツアーが組成・提供されている。ツアーには、「志摩自然学校」でのシーカヤック体験や「海女小屋」で海女の歴史を学ぶ体験などが組み込まれ、旅行者は環境との関わりが深いアクティビティを体験しながら、観光地の現状なども学ぶことができる。

このようなプロジェクトが生まれた背景には、観光サービスの消費による環境負荷への問題意識がある。近年、さまざまな地域では観光振興を通じた地域活性化が目指されているが、観光客の増加は同時に観光地への負荷を高めるという負の側面もある。一説には旅行・観光産業は世界のCO₂排出量の約1割を占め、その大部分が旅行者の移動から発生しているとも言われる。

「グリーンジャーニー」は観光の盛り上がりを地域活性化に活かすことと、観光による環境への負荷を減らすことの両立を目指している。そして、旅行という非日常の体験を通じて、環境を含めた地域の持続可能性を考える「きっかけ」を提供している点もポイントだろう。

今後、「観光」を介した地域と旅行者の関係性は変化するかもしれない。具体的には、地域が提供する観光サービスを旅行者が消費するという関係から、地域の持続可能性向上を目的とした、両者の「共創活動」への発展である。「グリーンジャーニー」はその第一歩となるか、動向に注目したい。

(地域調査部 主任研究員 中村 哲史)